

農場通信 2025年 7月号

2025/6/25

トヨタネ研究農場の「今」をお知らせ！ 圃場の写真と、環境データ・管理方法も合わせてご覧ください！

① 圃場 ハウス ② 試験内容 ③ 開始日 ④ 終了予定 ① 第4 A ② ココバッグ栽培展示 バッグ比較試験 ③ 2024/9/9 ④ 2025/6月末

品目 栽培中 栽培準備中 今月最終	圃場写真①	圃場写真②
直近の環境データ・管理方法(晴天日) ※特に表記のないものは 設定と実測の温度を示しています		今月の状況 と 今後の管理

大玉トマト		
【6/21 環境状況】		ココバッグ栽培の展示ハウスになります。 通常タイプのココバッグと、ココバッグ「ミニ」の比較試験を行います。 品種は桃太郎ホープ(台木:アシスト)2024/ 9/9定植。 通常バッグと「ミニ」バッグで、最終的な収量に大きな差は見られませんでしたが、また尻腐れの発生等もバッグ間で差は見られませんでした。灌水の頻度は、ミニの培地が少ない分、少量多頻度の灌水が向いていると思われます。 今作は6月末で作を終了し、次作は7月末に大玉トマト数品種を年2作型で栽培する予定です。

① 第4 B ② ミニトマト品種比較試験 ③ 2024/7/29 ④ 2025/6月 ① 第4 C ② 大玉トマト品種比較試験 ③ 2024/7/29 ④ 2025/6月

ミニトマト		
【6/21 環境状況】		ミニトマト20品種の比較試験を行っています。 日中24℃前後、株あたり2000ml、給液ECは1.5で灌水管理。 5月12日に摘芯を行いました。 6月末で栽培を終了しました。 次作は7月末に定植の予定です。

大玉トマト		
【6/21 環境状況】		大玉トマト20品種栽培中です。 5月12日に摘芯を行い、6月末で栽培を終了しました。 バコトップの効果でコナジラミ数は抑えられましたが、うどんこ病などほかの病気の発生もあり、殺菌剤の定期散布が必要と感じます。 次作は、盆明け定植の予定です。

① 第4 D ② アールスメロン品種比較試験 ③ 2024/5月上旬 ④ 2025/8月 ① 第4 E ② イチゴ栽培試験 ③ ④

アールスメロン		
【6/21 環境状況】		5/30～6/4で交配を行いました。 現在交配から1か月ほど経過した段階で、袋掛け作業を行っていきます。 玉肥大が悪く小玉傾向であったため、温度を上げて玉を緩める管理を行っています。今月下旬に見学会を開催予定です。

イチゴ		
		次作準備中

① 第4 J ② ココバッグ養液栽培試験 品種比較試験 ③ 2024/10/2 ④ 2025/4月末 ① 第4 I ② 高糖度ミニトマト品種比較試験 ③ 2024/8/30 ④ 2025/7/1

キュウリ		
【6/21 環境状況】		今作はココバッグを使った養液栽培に適する品種比較試験ということで、穂木品種8種類・台木品種4種類を栽培します。年2作型とし、1作目は10月定植、4月15日で終了。2作目を4月21日に定植しました。 5月15日から収穫が始まり、6月24日時点で1反換算7トン程度の収量となっています。曇天が続くと雌花が死んでしまい想定よりも本数が切れていいますが、その分、草勢は強い状態ですので、天候が良くなれば一気に増収する可能性があります。梅雨明け頃を目安に遮熱塗料を再度塗布します。

高糖度ミニトマト		
【6/21 環境状況】		ミニトマトの高糖度栽培での品種比較試験を行います。 培地はココバッグ、肥料はオリジナルの高糖度用単肥処方を使用します。 6月上旬に摘芯し、6月末時点で給液ECは2.0程度まで下げました。残り1～2段を収穫し、7月初旬に作を終える予定です。糖度の高かった品種はTTM-180、収量の出た品種は21N1460でした。次作もラインアップを少し変えて8月中旬に定植し、高糖度栽培を継続予定です。



豊かさ実る、タネを。
トヨタネ株式会社

研究農場 TEL (0532) 41-2007
愛知県豊橋市東高田町371 FAX(0532)41-2015
URL <https://www.toyotane.co.jp/>
E-mail info@toyotane.co.jp

① 第6

② スイートコーン品種比較試験

③ 2024/8月～

④ 2024/11月～

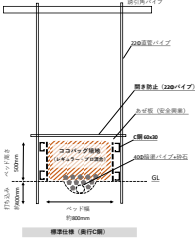
スイートコーン		
【作型一覧】 イエロー品種 1作目(早中生) 3/21播種 イエロー品種 2作目(中晩生) 4/17播種		イエロー2作型 バイカラー1作型（詳細は左記のとおり） 3/21播種の一作目は6/23に収穫調査を行いました。序盤は低温で生育停滞しましたが、終盤の高温で想定よりも熟期が前倒しとなりました。 2作目は7/10頃の収穫予定。現在のところ生育旺盛で順調です。 梅雨明け後の高温期は萎びが発生しやすいので灌水をこまめに行っています。

① 第3 M

② アスパラガス柵板式高畝栽培試験

③ 2023/6/2

④ 周年

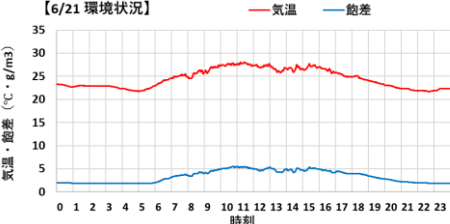
アスパラガス		
		アスパラの「柵板式高畝栽培」の実証試験。 2023年初夏に定植、2024年春から収穫開始。 柵板で隔離したベッドにココバグの中身を入れて養液栽培をします。品種も新しいタイプ3種類を含む、計6種類栽培しています。 収穫2年目となる今作では、全体的に前年よりも大幅に増収となっていて、春芽収穫後の収量の落ち込みも見られない状況です。6月末現在も引き続き収量は多い状況で、水分が不足しないように多頻度灌水(1日6-8回)で管理しています。

① 第8

② 『持続可能な施設園芸』実証試験

③ 2024/9/2

④ 2025/7月末

大玉トマト		
		ガス・アンプル・アンプル・アンプル『持続可能な施設園芸』実証試験として、減農薬・肥料削減・脱炭素を目標とした各種取り組みを行いました。6月いっぱい収穫終了しました。以下今作の、結果と反省点 ★減農薬⇒天敵・防虫ネット・捕虫シート等を組み合わせたIPMコナジラミの増加は少なく、農薬は削減できたが、黄化葉巻病は多く発生してしまった。農薬散布はある程度必要。 ★肥料削減⇒排液リサイクルシステムを使った栽培実証肥料は約30%削減でき、給液組成の大きな崩れも見られなかった。 ★脱炭素⇒暖房の排ガスからCO2を分離して再利用暖房機からのCO2だけでは日中400ppmを下回らない程度が限界で、冬季はもう少し高濃度の施用がしたいところ。

① 第2

② バイカラーコーン

③ 2024/09～

④ 2025/夏

バイカラーコーン		
		バイカラーコーンの栽培を行っています。 7月上旬には収穫を終了する予定です。 晴れ間が続き圃場が乾いたときは灌水を行いました。

① 施設栽培

② バコトツプ放飼防除試験

③ 2025/07～

バコトツプ		
研究農場では、2024年度トマト・キュウリ栽培ハウスにて、バコトツプの放飼試験を行っています。キュウリではアザミウマ類を対象に、トマトではコナジラミ類を対象にしています。 キュウリ、トマトハウスどちらとも、対象にしている害虫は発生状況を抑えることができています。トマトハウスでは、一部ハウスで、バコトツプによる果実の食害が発生しています。バコトツプに影響のある薬剤をかけることで、バコトツプの個体数を減少させ、食害の発生を抑制することができます。 現在、研究農場では次作に向けてのクレオメ(パンカープランツ)の育苗を行っています。これから鉢上げを行っていきます。		



豊かさ実る、タネを。
トヨタネ株式会社

研究農場 TEL (0532) 41-2007
愛知県豊橋市東高田町371 FAX(0532)41-2015
URL <https://www.toyotane.co.jp/>
E-mail info@toyotane.co.jp